



山岸 嘉彦 先生 御略歴

昭和 2 年(1927 年) 5 月 4 日 生
昭和 30 年(1955 年) 3 月 日本医科大学 卒業
昭和 41 年(1966 年) 2 月 日本医科大学 講師
昭和 49 年(1974 年) 10 月 日本医科大学 助教授
昭和 56 年(1981 年) 5 月 日本医科大学付属第二病院
(現 : 日本医科大学武蔵小杉病院) 放射線科 部長
昭和 59 年(1984 年) 10 月 日本医科大学 診療教授
昭和 63 年(1988 年) 5 月 日本医科大学付属第二病院長
平成 24 年(2012 年) 5 月 2 日 逝去 享年 84 歳

核医学会での役職

評議員 昭和 5 年 8 月 ~ 平成 6 年
理事 平成元年 10 月 ~ 平成 5 年 10 月
名誉会員 平成 8 年 10 月 1 日

弔 辞

日本医科大学名誉教授 惠畑 欣一

日本核医学会功労会員

日本核医学会名誉会員 山岸嘉彦先生の霊に謹んで哀悼の意を捧げます。

平成 24 年 5 月 2 日山岸嘉彦先生は 5 月 4 日の誕生日を待たずに逝去されました。享年 84 歳。3 年前に発見された肝癌は名手田島廣之教授(現、日本医科大学武蔵小杉病院低侵襲・血管内治療センター長)の IVR 治療によって経過良好でしたが、平成 23 年 11 月嚥下性肺炎をおこし、黄泉へ発たれてしまわれました。

先生は戦争中疎開して転校した県立福島中学四修で海軍兵学校(75 期)へ進み、戦争が終わって江田島から故郷の福島へ帰る途中で医師への道を志し、軍関係者の入学一割制限という受験困難を乗り越えて昭和 21 年 4 月、日医大予科入学、文武両道に秀でた学徒でした。医学部へ進んだ時に結核、4 回にわたる胸廓成形術他の手術を受けられました。昭和 30 年 3 月卒業、手術を受けた付属第一病院でインターン、修了後同大学放射線医学教室(山中太郎主任教授、第一病院齋藤達雄助教授)へ入局。臨床放射線医学が教室の方針、それに従って全般的 X 線診断、放射線治療に従事しました。先生の学位論文は「十二指腸球部の X 線学的機能診断の研究」です。多くの胸部、消化管 X 線診断の論文を書いています。教室の核医学診療はインビボが主体で昭和 36 年 10 月第一病院における東芝製 2 インチスキャナー購入に始まります。翌 37 年 6 月 1 日 Na^{131}I を用いての甲状腺シンチグラフィが第一号で他学に遅れました。先生は昭和 38 年 9 月放医研研修後、核医学診療、研究センターになりました。昭和 44 年 8 月に第一病院から付属病院(本院)に転任、核医学診療を担当します。第 10 回の金沢の核医学会総会に Ga の演題を出し講演したことは忘れられない事だと私たちの同門会誌に記載されています。昭和 60 年の秋期大会には「画像診断における核医学検査の役割、骨石灰化」を講演しております。研究指導は、Ga を中心とした腫瘍イメージング、心プールイメージングによる滲出性心膜炎の診断に始まる心臓核医学、肺血流換気イメージング、骨腫瘍を主とした骨イメージング、さらに血管病変や縦隔病変のイメージング等、多岐にわたっています。それらは国際放射線医学会議、世界核医学等に発表され、指導学位論文も増えました。昭和 49 年 10 月助教授、昭和 56 年 5 月付属第二病院放射線科部長、昭和 59 年 10 月診療教授。その頃付属 4 病院すべてに先生指導の下、核医学診療設備が整いました。昭和 63 年 5 月には付属第二病院院長に選出され、新病院建設に当たります。成果は大いに上がりました。平成 2 年 5 月には法人理事となります。その時の理事としての行動は賞讃されています。平成 5 年 3 月定年退職、37 年間放射線医学、32 年間核医学診療に従事したことになります。定年退職後は旧同級だった八木伸一先生の在、秦野市の八木病院副院長、放射線科部長として勤めました。先生は多趣味の方でクラシック音楽、ピアノ演奏、落語、演劇、歌舞伎、海外旅行、野球観戦(西武ファン)、病院長時間通勤も趣味の一つだと言っていました。帰りに新宿末広亭での落語もいいもんだと言っていました。

平成 23 年有料老人ホームに居を移して、ゆっくりしようとされましたが、4 月 24 日いつもご一緒の愛妻都様、事故急逝、寂しい生活となりました。10 月 13 日院長を勤めた武蔵小杉病院(第二病院名称変更)入院、翌 24 年 5 月 2 日逝去。

先生は教室(講座)の掲げる臨床放射線医学の大道を歩まれ、核医学の道を極めました。教育・診療・研究の三本柱の仕事は賞讃されます。おふたりの御令息は医師、薬剤師となりました。多岐にわたるご指導、有難うございました。教室同門一同感謝しております。どうぞ安らかに眠りください。

ご冥福をお祈りいたします。合掌